

3

主語はなるべく軽快にする

この章で学ぶポイント

内容をたくさん書くには「ダダアル調」を使う

段落とは意味のまとまり・区切りである

人間の体験は、登場人物と行動で表す

◎「デスマス調」でなくていいか？

え？ 前回書いた文章は「デスマス調」になっていないって？ たしかに、ていねいに書くときは「デスマス調」で書きなさいと、学校では教わることが多いようですね。会社に出す文書だから、「デスマス調」にした方が良く、とみんな思うみたいです。

だけど、必ずしもそんなことはありません。話し言葉では「デスマス調」にした方がいいのですが、書き言葉では、必ずしもそうではないのです。前にも説明したように、文体は容器。敬意を表したいなら、文体に頼らず、中身で勝負した方が良く。ために、P.14の文章を「デスマス調」に直してみましようか？

私は学校ではずっとバンド活動をしていました。きっかけはある

グループの歌声を好きになったことです。高音のシャウトするような声で、聞かたびに、自分が限界を突き抜けていくような気持ちになって心地いいのです。そこで、そのグループのコピーから始めたのですが、そのうちに自分でも曲を作るようになったのです。楽譜は読めないのですが、ギターでコードを弾いているうちに、いい文句が浮かぶので録音しておきます。それをためておいて、ワンフレーズかツーフレーズできたところで、バンドのメンバーの前でやってみるのです。全部自分で作るより、メンバーの意見を募った方が、自分が思ってもいない方向に変わっていきます。その楽しさが、バンド活動の本質にあると思います。

ありや、文章は一行増えて字数も10%ほど多くなっちゃいましたね。なるほど、ていねいな感じは少し増したようですけど、文章もなんだかモタモタしています。どちらで書いてもいいのですが、内容をたくさん書こうと思ったら、「ダデアル調」で十分です。

それに練習を進めるうちに「書く内容が足りない！」という悩みはなくなります。むしろ「書きたいことはいっぱいあるのに、スペースが足りない！」と悩むはずです。逆に、そうなるくらい練習を積まないと、いい文章は書けないと思ってください。その意味から言っても「デスマス調」は不利なのですね。

課題3-1 課題2-3で書いた「自分について」が「デスマス調」なら「ダデアル調」に書き直そう（あるいはその逆）。
